

許容電流値について

LAPP の場合、以下にガイドラインとして、周囲温度+30°Cで定格電圧 1000V 以下のケーブル及び耐熱ケーブルの場合の許容電流値を示します。

一般的な規定および推奨値については、DIN VDE 0298 Part 2 および Part 4 に記載されています。

下の表の値は基準値で、内容は DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 11 および 15 から抜粋し、簡略化したものです。また、0.08~0.34 mm²の範囲は DIN VDE 0891、1990-05、Part 1 をベースとしています。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

テーブル 12-1:許容電流値

ケーブルカテゴリ					
	A 単線 ・ゴム絶縁 ・PVC 絶縁 ・TPE 絶縁 ・耐熱	B 家庭用/ 携帯型機器用 多心ケーブル ・ゴム絶縁 ・PVC 絶縁 ・TPE 絶縁	C 家庭用/ 携帯型機器用を除く 多心ケーブル ・ゴム絶縁 ・PVC 絶縁 ・TPE 絶縁 ・耐熱	D 多心ラバー製シースケーブル 最小 0.6/1 kV 単線 特殊ゴムコアケーブル 0.6/1 または 1.8/3 kV	
配線方法					
通電心数	1 ³⁾	2 3	2 または 3	3 1 ³⁾	
公称断面積 (mm ²)	定格電流 (A)	定格電流 (A)		定格電流 (A)	
0.08 ¹⁾	3	-	-	-	-
0.14 ¹⁾	4.5	-	-	-	-
0.25 ¹⁾	7	-	-	-	-
0.34 ¹⁾	8	-	-	-	-
0.5	12 ²⁾	3	3	9 ²⁾	-
0.75	15	6	6	12	-
1	19	10	10	15	-
1.5	24	16	16	18	23 30
2.5	32	25	20	26	30 41
4	42	32	25	34	41 55
6	54	40	-	44	53 70
10	73	63	-	61	74 98
16	98	-	-	82	99 132
25	129	-	-	108	131 176
35	158	-	-	135	162 218
50	198	-	-	168	202 276
70	245	-	-	207	250 347
95	292	-	-	250	301 416

120	344	-	-	292	-	488
150	391	-	-	335	-	566
185	448	-	-	382	-	644
240	528	-	-	453	-	775
300	608	-	-	523	-	898
400	726	-	-	-	-	-
500	830	-	-	-	-	-
	DIN VDE 0298-4, 2003-08 テーブル 11 コラム 2	DIN VDE 0298-4, 2003-08 テーブル 11 コラム 3 + 4		DIN VDE 0298-4, 2003-08 テーブル 11 コラム 5		DIN VDE 0298-4, 2003-08 テーブル 15 コラム 4 + 2

1) VDE 0891-1 からの引用による 0.08 mm² - 0.34 mm²までの公称断面積の定格電流値

2) VDE 0298-4、2003-08、テーブル 11 に従う 0.5 mm²の拡張範囲

3) 単線、接触しているケーブル、ケーブルを結束する場合、気中やケーブルコンジットに配線する場合は、DIN VDE 0298-4、2013-06、テーブル 10 を遵守してください。

重要:

この表に記載される情報は DIN VDE 0298-4、2013-06 の情報とは異なります。したがって、不明点がある場合は、DIN VDE 0298-4 の最新バージョンを常に適用してください。

下記については、テーブル 12-1 以降の該当するすべての減少係数を遵守してください。

- 異なる周囲温度: テーブル 12-2
- 通電心線が 3 本以上の時の 10 mm²以下の多心ケーブル: テーブル 12-3
- 周囲温度が 50°C を超える耐熱ケーブル: テーブル 12-4
- コイル状に巻かれたケーブル: テーブル 12-5
- パイプ、ダクト、壁または床で束ねた単線、多心ケーブル: テーブル 12-6
- 多心ケーブルをトラフ、ケーブルラックまたはコンジットで配線: テーブル 12-7
- 単線をトラフ、ケーブルラックまたはコンジットで配線: テーブル 12-8

テーブル 12-1 A~D ケーブルカテゴリ:

【カテゴリ A】:

シングルコア: LiY、LiYCY-EA、H05V-K、H07V-K、H07V2-K、H07Z-K、Multi-Standard SC、ÖLFLEX®HEAT 125、180、205、260 等の SC(シングルコア)

【カテゴリ B】:

家庭用およびポータブル機器用のマルチコアケーブルとサービスコード: ÖLFLEX®CLASSIC 100、H05VV-F、450 P、500 P、540 P、H05RR-F、H05RN-F 等

【カテゴリ C】:

家庭用およびポータブル機器を除くマルチコア電源および制御ケーブル: すべての ÖLFLEX®-、ÖLFLEX®CRANE-、ÖLFLEX®HEAT-、ÖLFLEX®HEAT 180-、ÖLFLEX®HEAT 205 / 260-ケーブル等

【カテゴリ D】:

マルチコアヘビードューティーゴムケーブル U0 / U ≤ 0.6 / 1kV: ÖLFLEX®CRANENSHTÖU、ÖLEXLEX®CRANE VS、NSHTÖU、NSSHÖU、ÖLFLEX®HEAT-マルチコアケーブル
シングルコア特殊ゴムケーブル、U0 / : 0.6 / 1kV または 1.8 / 3kV: NSGAFÖU、NSHXAFÖU; ÖLFLEX®HEAT®145 シングルコアケーブル

下記については、テーブル 12-1 以降の該当するすべての定格電流も遵守してください。

- 銅製アースケーブル”ESUY “: VDE 0105 Part1 を参照
- 産業用ケーブル”H07RN-F / A 07RN-F / H07BQ-F”: テーブル 12-9 を参照。
- 溶接ケーブル”H01N2-D”: テーブル 12-10 を参照。
- 銅導体の動作電流および電力損失: テーブル 12-11 を参照。
- 建物の配線用ケーブル”NYM、NHXMH、NYY、NYCY、NYCWY、NHXHX”: VDE 0298-4、2003-08、Table 3 および 4 を参照。
- 機械のケーブルとワイヤ: DIN EN 60204-1 / VDE 0113-1 を参照。
- 米国向け機械のケーブルとワイヤ: National Electrical Code & NFPA 79、Table 13 を参照。

●表面接触配線: テーブル 12-1 カテゴリ A または D の減少係数

- *単相 AC または DC 回路の場合: 0.76 の減少係数
- *三相 AC 回路の場合: 0.67 の減少係数

※テーブル 12-6 の減少係数を適用する前に適用する必要があります

●気中配線またはケーブルトレイ配線: テーブル 12-1 の A または D の減少係数

- *単相 AC または DC 回路の場合: 0.8 の減少係数
- *三相 AC 回路の場合: 0.7 の減少係数

※テーブル 12-8 の減少係数を適用する前に適用する必要があります。

●注意: 壁内の電線管(パイプ)に配線、または壁埋設されたシングルコア(ワイヤ)(配線方法 A1 または B1) 建物では、VDE 0298、Table 3 または 5、列 2、3、6、または 7 および Table 21 を参照してください。

低電圧電気設備に関する注記 - 安全保護 - 過電流に対する保護:

HD 60364-4-43: 2010 および DIN VDE 0100-430 (VDE 0100-430):

2010-10 (IEC 60364-4-43: 2008, 2008 年 10 月改定版)に準拠

上記の規格に従って、通電された導体を過電流から保護する必要があります。この規格には、過負荷および短絡の際に電源の間接接触、過電流遮断器など、通電された導体を保護する方法が記載されています。

テーブル 12-2:減少係数

本テーブルは、周囲温度が 30°C 以外の場合を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 17 から抜粋したものです。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

導体の許容/推奨動作温度 (固定または可動使用の最大値(°C)は、本カタログ製品ページのテクニカルデータの温度範囲に記載されています。)					
	60°C	70°C	80°C	85°C	90°C
周囲温度 (°C)	テーブル T12-1 の定格電流に適用される減少係数				
10	1.29	1.22	1.18	1.17	1.15
15	1.22	1.17	1.14	1.13	1.12
20	1.15	1.12	1.1	1.09	1.08
25	1.08	1.06	1.05	1.04	1.04
30	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
35	0.91	0.94	0.95	0.95	0.96
40	0.82	0.87	0.89	0.90	0.91
45	0.71	0.79	0.84	0.85	0.87
50	0.58	0.71	0.77	-	0.82
55	0.41	0.61	0.71	-	0.76
60	-	0.50	0.63	-	0.71
65	-	0.35	0.55	-	0.65
70	-	-	0.45	-	0.58
75	-	-	0.32	-	0.50
80	-	-	-	-	0.41
85	-	-	-	-	0.29

テーブル 12-3:減少係数

本テーブルは、導体断面積 10 mm²までの多心ケーブルで、導体に通電している心数による減少係数を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 26 から抜粋したものです。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

※通電とは、動力負荷とし、制御信号は通電としてカウントしません。

通電心数	気中配線時の減少係数	埋設時の減少係数
5	0.75	0.70
7	0.65	0.60
10	0.55	0.50
14	0.50	0.45
19	0.45	0.40
24	0.40	0.35
40	0.35	0.30
61	0.30	0.25

テーブル 12-4: 耐熱ケーブルの減少係数

下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 18 から抜粋したものです。著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

導体の許容/推奨動作温度 (固定または可動使用の最大値(°C)は、本カタログの製品ページのテクニカルデータの温度範囲に記載されています。)				
	90°C	110°C	135°C	180°C
周囲温度 (°C)	テーブル T12-1 の A、C、D 列の耐熱ケーブルの定格電流に適用される減少係数			
50 未満	1.00	1.00	1.00	1.00
55	0.94	1.00	1.00	1.00
60	0.87	1.00	1.00	1.00
65	0.79	1.00	1.00	1.00
70	0.71	1.00	1.00	1.00
75	0.61	1.00	1.00	1.00
80	0.50	1.00	1.00	1.00
85	0.35	0.91	1.00	1.00
90	-	0.82	1.00	1.00
95	-	0.71	1.00	1.00
100	-	0.58	0.94	1.00
105	-	0.41	0.87	1.00
110	-	-	0.79	1.00
115	-	-	0.71	1.00
120	-	-	0.61	1.00
125	-	-	0.50	1.00
130	-	-	0.35	1.00
135	-	-	-	1.00
140	-	-	-	1.00
150	-	-	-	1.00
155	-	-	-	0.91
160	-	-	-	0.82
165	-	-	-	0.71
170	-	-	-	0.58
175	-	-	-	0.41

テーブル 12-5: コイル状に巻かれたケーブルの減少係数

下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 27 から抜粋したものです。



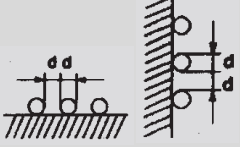

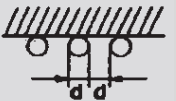
コイル、ドラム、リールの層数	1	2	3	4	5
減少係数	0.80	0.61	0.49	0.42	0.38

スパイラルケーブルには減少係数 0.8 が適用されます (1 層につき)。

テーブル 12-6: 減少係数

床面または壁面にケーブルを束ね、パイプやダクトに収容する場合を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 21 から抜粋したものです。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

配線方法	多心ケーブルの数、単心ケーブルで形成される AC 回路または 3 相交流回路の数 (2 または 3 心の通電された導体)														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	14	16	18	20
	テーブル T12-1 の定格電流に適用される減少係数														
床面、壁面、パイプやダクト内で結束ねて配線 	1.00	0.80	0.70	0.65	0.60	0.57	0.54	0.52	0.50	0.48	0.45	0.43	0.41	0.39	0.38
床面または壁面接触配線 (1 層で配線) 	1.00	0.85	0.79	0.75	0.73	0.72	0.72	0.71	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
床面または壁面で外径 d と同じスペースを取り 1 層で配線 	1.00	0.94	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
天井接触配線 (1 層で配線) 	0.95	0.81	0.72	0.68	0.66	0.64	0.63	0.62	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61
天井で外径 d と同じスペースを取り 1 層で配線 	0.95	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85

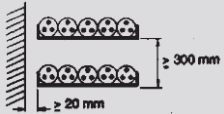
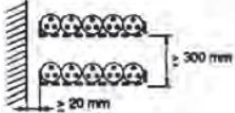
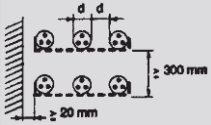
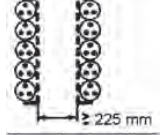
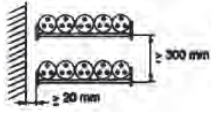
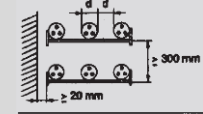
○ = 単心ケーブルまたは多心ケーブルを表します

重要: 減少係数は、同じ種類のケーブルを同じ負荷で使用する場合で、表中の配置に従って決定し適用する必要があります。この時ケーブルの種類は複数の公称断面積のものを混ぜてはいけません。

テーブル 12-7: 減少係数

多心ケーブルをトラフやコンジットで束ねる場合を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 22 から抜粋したものです。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

配線方法		トラフまたは コンジット数	多心ケーブルの数					
			1	2	3	4	6	9
		減少係数						
通気孔なし トラフ	接触 	1	0.97	0.84	0.78	0.75	0.71	0.68
		2	0.97	0.83	0.76	0.72	0.68	0.63
		3	0.97	0.82	0.75	0.71	0.66	0.61
		6	0.97	0.81	0.73	0.69	0.63	0.58
通気孔あり トラフ	接触 	1	1.00	0.88	0.82	0.79	0.76	0.73
		2	1.00	0.87	0.80	0.77	0.73	0.68
		3	1.00	0.86	0.79	0.76	0.71	0.66
		6	1.00	0.84	0.77	0.73	0.68	0.64
	スペースあり 	1	1.00	1.00	0.98	0.95	0.91	–
		2	1.00	0.99	0.96	0.92	0.87	–
		3	1.00	0.98	0.95	0.91	0.85	–
		6	1.00	0.91	0.89	0.88	0.87	–
	接触 	1	1.00	0.88	0.82	0.78	0.73	0.72
		2	1.00	0.88	0.81	0.76	0.71	0.70
		3	1.00	0.91	0.89	0.88	0.87	–
		6	1.00	0.91	0.88	0.87	0.85	–
ケーブル コンジット	接触 	1	1.00	0.87	0.82	0.80	0.79	0.78
		2	1.00	0.86	0.81	0.78	0.76	0.73
		3	1.00	0.85	0.79	0.76	0.73	0.70
		6	1.00	0.83	0.76	0.73	0.69	0.66
	スペースあり 	1	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	–
		2	1.00	0.99	0.98	0.97	0.96	–
		3	1.00	0.98	0.97	0.96	0.93	–
		6	1.00	0.91	0.89	0.88	0.87	–

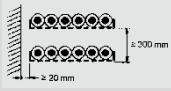
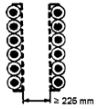
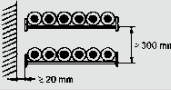
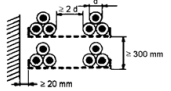
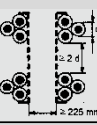
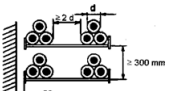
重要: このテーブルの減少係数は、図のように一層に配線されたケーブルグループにのみ適用されます。ただし、ケーブルを互いに接触させて配線する場合や、ケーブルトレイやケーブルコンジット間の実際の 間隔の寸法が指定した間隔に達していない場合は、適用されません。この場合は、別途減少係数を考慮します。(テーブル 12-6 などに従います)。

テーブル 12-8: 減少係数

単心ケーブルをトラフやコンジットで束ねる場合を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN

VDE 0298 Part 4, 2013-06, Table 23 から抜粋したものです。

著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

配線方法		トラフまたは コンジット数	単心ケーブルで形成される三相回路の数			配線
			1	2	3	
			減少係数			
通気孔あり トラフ	接触 	1 2 3	0.98 0.96 0.95	0.91 0.87 0.85	0.87 0.81 0.78	3 本のケーブル、 水平配線、一層
	接触 	1 2	0.96 0.95	0.86 0.84	- -	3 本のケーブル、 垂直配線、一層
ケーブル コンジット	接触 	1 2 3	1.00 0.98 0.97	0.97 0.93 0.90	0.96 0.89 0.86	3 本のケーブル、 水平配線、一層
通気孔あり トラフ		1 2	0.96 0.95	0.86 0.84	- -	3 本のケーブル、 水平配線、 俵結束
		1 2 3	1.00 0.98 0.97	0.97 0.93 0.90	0.96 0.89 0.86	3 本のケーブル、 垂直配線、 俵結束
ケーブル コンジット		1 2 3	1.00 0.97 0.96	1.00 0.95 0.94	1.00 0.93 0.90	3 本のケーブル、 水平配線、 俵結束

重要: このテーブルの減少係数は、図のように一層に配線された単心ケーブルグループにのみ適用されます。ただし、ケーブルを互いに接触させて配線する場合や、ケーブルトレイやケーブルコンジット間の実際の間隔の寸法が指定した間隔に達していない場合は、適用されません。この場合は、減少係数を減少します (テーブル 12-6 などに従います)。回路を並列に接続する場合は、並列接続の 3 本の導体の各結束を 1 つの回路として考えます。

テーブル 12-9: ラバーシースケーブルの定格電流

産業用途の架橋エラストマーケーブルやラバーフレキシブルケーブルの定格電流 (H07RN-F および A07RN-F 等) を示します。

下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4, 2013-06, Table 13 から抜粋したものです。著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

導体の許容動作温度:60°C							
周囲温度:30°C							
配線方法: 空中配線							
通電心数	2	3	2	2	3	3	3
銅導体の公称断面積 (mm ²)	定格電流 (A)						
1	-	-	15	15.5	12.5	13	13.5
1.5	19	16.5	18.5	19.5	15.5	16	16.5
2.5	26	22	25	26	21	22	23
4	34	30	34	35	29	30	30
6	43	38	43	44	36	37	38
10	60	53	60	62	51	52	54
16	79	71	79	82	67	69	71
25	104	94	105	109	89	92	94
35	129	117	-	135	110	114	-
50	162	148	-	169	138	143	-
70	202	185	-	211	172	178	-
95	240	222	-	250	204	210	-
120	280	260	-	292	238	246	-
150	321	300	-	335	273	282	-
185	363	341	-	378	309	319	-
240	433	407	-	447	365	377	-
300	497	468	-	509	415	430	-
400	586	553	-	-	-	-	-
500	970	634	-	-	-	-	-
630	784	742	-	-	-	-	-
減少係数:							
異なる周囲温度	テーブル T12-2 を参照						
結束	-	T12-8			T12-7		
コイル状に巻かれたケーブル	-	-			T12-5		
多心ケーブル			-		T12-3		-

架橋エラストマー絶縁付き耐熱ケーブルのその他の周囲温度の減少係数を示します。下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 18.1 から抜粋したものです。

周囲温度(°C)	許容動作温度:90°C
	テーブル T12-1 の定格電流に適用される減少係数
60 未満	1.00

75	0.71
80	0.58
85	0.41

テーブル 12-10: 溶接用ケーブルの動作条件および定格電流

H01N2-D および H01N2-E

下の表の値は基準値であり、簡略化した形で DIN VDE 0298 Part 4、2013-06、Table 16 から抜粋したものです。著作権上の理由により、DIN VDE 0298 Part 4 からの抜粋のみここに記載します。

導体の許容動作温度:60°C							
周囲温度:30°C							
配線方法: 気中配線							
	通電心数	1					
動作モード	連続運転	断続運転					
稼働時間	-	5分					
スイッチオン時間(ED)	100%	85%	80%	60%	35%	20%	8%
銅導体の公称断面積 (mm ²)	定格電流 (A)						
10	96	97	98	102	114	137	198
16	130	132	134	142	166	204	301
25	173	179	181	196	234	293	442
35	216	226	229	250	304	384	584
50	274	287	293	323	398	508	779
70	341	360	368	409	510	655	1011
95	413	438	448	502	632	816	1266
120	480	511	523	588	745	966	1502
150	557	594	609	687	875	1137	1771
185	638	683	700	793	1012	1319	2059
動作モード	連続運転	断続運転					
稼働時間	-	10分					
スイッチオン時間(ED)	100%	85%	80%	60%	35%	20%	8%
銅導体の公称断面積 (mm ²)	定格電流 (A)						
10	96	96	96	97	102	113	152
16	130	131	131	133	144	167	233
25	173	175	176	182	204	244	351
35	216	220	222	233	268	324	477

銅導体												
EPR*	60	250**							159	165	170	176
PVC: 300mm ² 以下の フレキシブルケーブル	70	150						109	117	124	131	138
固定使用ケーブル: 300 mm ² 以下	70	160						115	122	129	136	143
固定使用ケーブル: 300 mm ² 以上	70	140						103	111	118	126	133
PVC、耐熱	90	150				93	101	109	117	124	131	138
シリコンゴム	180	350**	132	153	164	173	178	182	187	192	196	201
錫メッキ導体		200	49	91	109	122	128	135	141	147	153	159
アルミ導体												
PVC ケーブル: 300 mm ² 以下	70	160							81	85	90	95
PVC ケーブル: 300 mm ² 以上	70	140							73	78	83	88

* エチレンプロピレンゴム (EPR) またはエチレンプロピレンジエンゴム (EPDM)

** 錫メッキ導体の温度は+200° C に制限され、軟質はんだ接続の場合は+160°Cに制限されます。

テーブル 13-1: 米国のケーブルの定格電流

NEC テーブル T310.15 (B)(16)

定格電圧 0 ~ 2000V、60°C ~ 90°C (140°F ~ 194°F) の絶縁銅導体の許容定格電流。1本のケーブルダクト、パイプ、ホースまたは1本の(多心)ケーブルで通電中の導体が3心を超えない、または地下埋設(直接地下配線)、周囲温度 30°C (86°F) に基づく。

NEC T310.15 (B)(17)

定格電圧 0 ~ 2000V の銅導体単心ケーブルの許容定格電流、気中配線、周囲温度 30°C に基づく。

(NEC エディション 2017)

公称断面積 AWG または kcmil(MCM)	導体の許容連続温度での定格電流 (A)			公称断面積 AWG または kcmil(MCM)	導体の許容連続温度での定格電流 (A)		
	60°C (140°F)	75°C (167°F)	90°C (194°F)		60°C (140°F)	75°C (167°F)	90°C (194°F)
18	—	—	14*	18	—	—	18
16	—	—	18*	16	—	—	24
14	15*	20*	25*	14	25*	30*	35*
12	20*	25*	30*	12	30*	35*	40*
10	30*	35*	40*	10	40*	50*	55*
8	40	50	55	8	60	70	80
6	55	65	75	6	80	95	105
4	70	85	95	4	105	125	140
3	85	100	115	3	120	145	165
2	95	115	130	2	140	170	190
1	110	130	145	1	165	195	220
1/0	125	150	170	1/0	195	230	260
2/0	145	175	195	2/0	225	265	300
3/0	165	200	225	3/0	260	310	350

4/0	195	230	260	4/0	300	360	405
250	215	255	290	250	340	405	455
300	240	285	320	300	375	445	500
350	260	310	350	350	420	505	570
400	280	335	380	400	455	545	615
500	320	380	430	500	515	620	700
600	350	420	475	600	575	690	780

周囲温度が 30°C 以外の場合の補正係数				1本のケーブルダクト、パイプ、ホースまたは1本の(多心)ケーブルで通電中の導体が3心を超える場合の補正係数	
周囲温度(°C)	60°C	75°C	90°C	通電中の導体の数	補正係数
21 - 25	1.08	1.05	1.04	4 ~ 6	0.80
26 - 30	1.00	1.00	1.00	7 ~ 9	0.70
31 - 35	0.91	0.94	0.96	10 ~ 20	0.50
36 - 40	0.82	0.88	0.91	21 ~ 30	0.45
41 - 45	0.71	0.82	0.87	31 ~ 40	0.40
46 - 50	0.58	0.75	0.82	40 以上	0.35
51 - 55	0.41	0.67	0.76		
56 - 60	-	0.58	0.71		
61 - 65	-	0.47	0.65		
66 - 70	-	0.33	0.58		
71 - 75	-	-	0.50		
76 - 80	-	-	0.41		
81 - 85	-	-	0.29		

*導体の過電流保護については、NEC 240.4 (D) を参照してください。

注記: 必ず NEC の有効なエディションを参照してください。これは、上記以外のすべてのケースにも適用する必要があります。

産業用機械および装置におけるケーブルの定格電流については、NFPA 79 エディション 2015 のセクション 12 に記載されています。